



岡 津



令和元年度のキーワード

「つなぐ^{×3} そして、もっとその先へ・・・」

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/okazu/>



学校だより 2月号
令和2年1月31日
横浜市立岡津小学校
校長 宮路 ますみ
TEL 811-4104
FAX 812-4586
(岡津小HPのQRコード掲載)

ふるさと「岡津」

副校長 加藤 純

新年が明け、1か月が経ちました。東京オリンピック2020の開会式まで半年となり、各地でイベントが盛んに行われるようになりました。残り日数としては『175日』です。今回の東京開催が決定したのは2013年(平成25年)9月7日でしたので、あれから6年以上の月日が経っています。その間、国立競技場のデザインが変更になったり、マラソン会場が札幌になったりと、当初の計画とは随分と変わった部分がありますが、56年ぶりに行われる東京オリンピックもようやくここまで来たという感じだと思います。

残り日数の話題でいうと『638日』というものがあります。これは岡津小学校創立100周年記念式典予定日である2021年(令和3年)10月30日(土)までの日数です。創立100周年に向けては今年度、実行委員会が立ち上がりました。周年行事の中でも一番重要視される100周年という区切りの行事が迫っています。子どもたちが「岡津」にふるさと意識をもてるように少し調べてみました。

まず、国語辞典で地名の「岡」と「津」について意味を調べてみたところ、

「岡」＝小高くなった土地。山より低く傾斜のなだらかなもの。

「津」＝①船が停泊するところ。船着き場。

②港(湊)を控えて人が多く集まる場所。人が多く集まる地域。

と載っていましたので、「岡津」は周りと比べて小高い土地で、阿久和川・子易川・領家川が合流する地点は今よりもっと川幅が広く、船着き場となっていた可能性があるかと想像できます。

次に「岡津」の地名がいつから文献に残っているかを調べました。すると、今から750年前の鎌倉時代、1270年(文永7年)鎌倉八幡宮所蔵の文献に「岡津」の地名が見られます。泉区の中の地名では最も古く文献に登場するので、古来より水田地帯として開けていて人々が定住していることがうかがえます。

昔から田畑が開けて水運が発達し、大山道や小田原に続く古道もあり交通の要衝であった「岡津」。周辺には寺社が創建され、言い伝えによると岡津中学校・岡津小学校の敷地は室町時代から江戸時代初期にかけて「岡津城」があったとされています。実際、三嶋神社の前や本校の校舎の裏には土塁と思われる跡も残っています。

この「岡津」地域の学校に目を移すと、江戸時代から寺子屋が存在していましたが、泉区が発行している「いずみいまむかし」によると、近代学校としての「岡津学舎」は1873年(明治6年)に開校しています。その後、1921年(大正10年)に現在の地に「中川村立尋常小学校」が設置され、この学校が現在の岡津小学校に至るのです。来年の2021年(令和3年)は「中川村立尋常小学校」設置から100周年・「岡津学舎」開校から148周年となります。

「岡津」というキーワードをきっかけに調べただけで、これだけの歴史が分かりました。「岡津」に関連する他のキーワード(例えば、阿久和川や三嶋神社など)でも色々な事実が分かるかもしれません。ふるさと「岡津」という子どもたちの意識が高めるためには学校をはじめ、保護者・地域の方々とともに協力し合っていくことが不可欠です。創立100周年に向けての取組が、良い機会といえます。十分な計画を立て、準備していきたいと思えます。

「岡津」のまちに愛着をもち、「岡津小学校」出身ということに誇りをもてる地域・学校をこれからもめざしていきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひいたします。



校舎裏に残る岡津城の土塁？